

新規入院

	患者数 (人)	平均年齢 (歳)	重症者割合 (%)
2016年度	223	81.9	39.0
2017年度	238	82.7	36.9

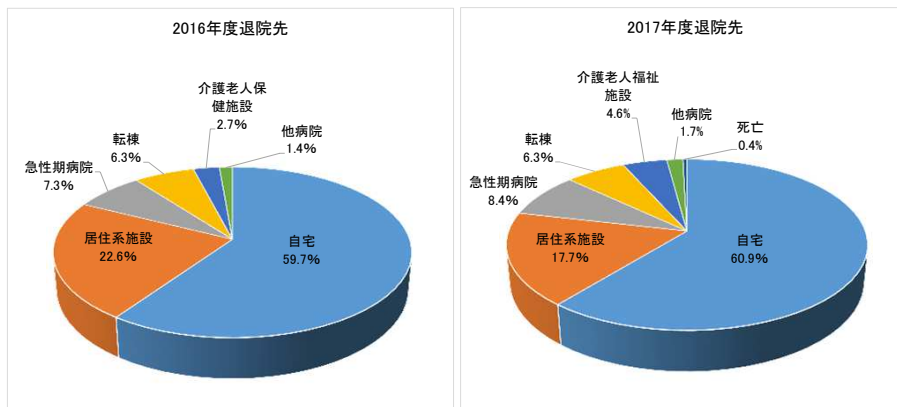
重症者とは、回復期リハビリに入院した患者様のうち、寝返りや他者への意思の伝達など、日常の基本的動作の13項目について、「日常生活機能評価」を用いて評価したものです。

退院

	患者数 (人)	在宅復帰率 (%)	重症改善 (4点以上) 率 (%)
2016年度	221	88.7	71.6
2017年度	238	85.7	66.2

・重症者改善率とは、入院時の重症患者様のうち、退院時の日常生活機能評価が入院時から比べ4点以上減点 (改善) した患者様の割合を示しています。

・在宅復帰率とは、退院患者様が自宅・居住系介護施設に帰られた割合を示しています。



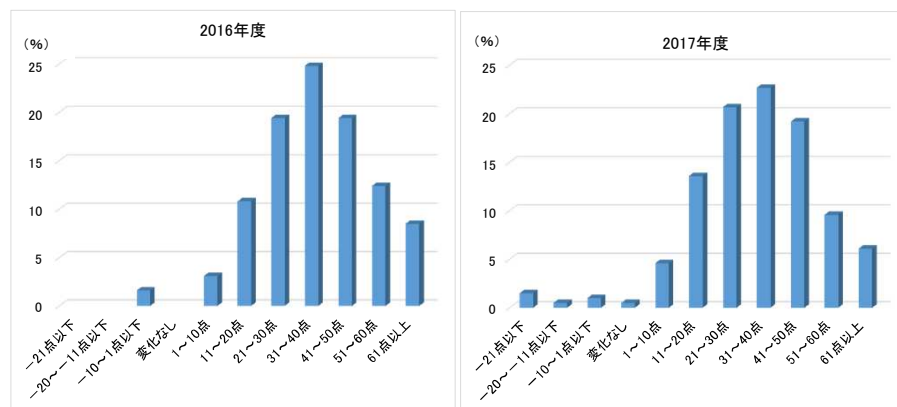
アウトカム評価

	対象患者数	リハビリテーション実績指数
2016年度	129	43.8
2017年度	198	41.1

・2016年度は、2016年7月～2017年3月までの期間 (対象期間が2016年7月開始のため)。2017年度は、2017年4月～2018年3月までの期間。

・リハビリテーション実績指数とは、「入院から退院に至るまでのADL改善」と「在院日数」から算出され、「27未満」はリハビリ効果が低く、高いほど効果も高いと判断されます。また、基準がいくつか設定されていて「37以上」は最も高い基準となっています。

対象患者のADL利得 (FIM)



ADLが入棟時に比べて退棟時にどの程度改善 (退棟時FIM-入棟時FIM) したかを示しています。点数が高いほどADLがより改善 (= 介護の必要性が低い) しています。

ADLとは、食事・更衣・移動・排泄・整容・入浴など生活を営む上で不可欠な基本的行動です。その評価法は「FIM」(Functional Independence Measure) で、点数が高いほどADLが高い (= 介護の必要性が低い) という結果です。